

学校教育課だより

かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第5号】
平成30年
9月3日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

「危機感ある時代感覚」 の教育の今

教育長 勝又 将雄



異常気象下の猛暑の夏。プール
の水温が高すぎてプール
を開放できません。「体育館
の温度、湿度が高すぎて活動
不可となっております。」という
報告が届きました。二学期の
学校生活開始。運動会・体育
大会を目前に、子供たちの安
全・安心な生活、健康管理を
是非優先願います。

夏休みに実施された「教育
フォーラム」全体会での基調
講話は、全体会の進行の時間
調整の役割もあって、毎年予
定内容を部分変更し対応して

います。冊子の資料とは別の
切り込み方で伝えました。何
冊か書物も取り上げましたが、
当日までに手に入らなかった
新刊『戦中・戦後の暮らしの
記録』（暮らしの手帖社）は夏
休みに目を通しました。前作
の昭和の時代（一九六八年に
出版された『戦争中の暮らし
の記録』は、戦時下の「庶民
の日常の記録」を意識して編
まれ、不朽のロングセラーと
なっています。学校図書館に
も蔵書となっているはずなの
で、きつと手にされた先生方

もいるものと思います。私の
母親は、戦後の日常生活のな
かで、唯一の趣味のように皇
室の明るい話題の新聞記事を
丁寧に切り取り、整理してい
ました。「平和」の言葉とその
事態を象徴する皇室という感
覚であったのかもしれませんが
しかし、その母親が自身の戦
争時代の体験を語る中で、哀
しく切なそうに紹介してくれ
たその本でもありました。

◆教育フォーラムで少し端折
ったことで、もう少し丁寧に
伝えたいことを改めて取り上
げます。確認してほしいと言
いながら、やはり時間拘束を
かけ、負担させることを申し
訳なく思ったからです。

私は「教育基本法」の改正
時期に、本当に危機感を持ち
ました。日本国憲法と合わせ
て存在していたものが一番抵

抗なく進行させられるという
感じの改正だったからです。
昭和二十二年（一九四七年三
月）の「教育基本法」と、平成
十八年の「改正教育基本法」
の違いは明白です。改正前の
教育基本法の「前文」。

「われらは、さきに、日本国
憲法を確定し、民主的で文化
的な国家を建設して、世界の
平和と人類の福祉に貢献し
ようとする決意を示した。こ
の理想の実現は、根本におい
て教育の力にまつべきもの
である。われらは、個人の尊
厳を重んじ、真理と平和を希
求する人間の育成を期する
とともに、普遍的にしてしか
も個性ゆたかな文化の創造
をめざす教育を普及徹底し
なければならない。ここに、
日本国憲法の精神に則り、教
育の目的を明示して、新しい
日本の教育の基本を確立す
るため、この法律を制定す
る。」

戦後の日本国憲法が一九四
六年十一月公布、翌一九四七
年五月施行で、まだ制定の時
点で、施行されていないので、「確定」とされていません。

しかし、日本国憲法の理想を
新しい教育によって実現しよ
うとする明確な意思が示され
ています。
もう一つは、改正教育基本
法・第十条が「新設」され話
題となったものです。
その第一項では、

「父母その他の保護者は、
子の教育について第一義的責
任を有するものであって、生
活のために必要な習慣を身に
付けさせるとともに、自立心
を育成し、心身の調和の取れ
た発達を図るよう努めるもの
とする。」

とあり、保護者に義務を課
す規定ぶりとなっています。
どこかで再度提示する機会を
持ちたいと考えています。

◆全国的な猛暑の中、学校の
教室にエアコンが設置されて
いないことで、国が動き始め
ました。「高原地・御殿場」、
「避暑地・御殿場」と言われ
てきた当市も連日猛暑日とな
る異常気象下にあります。自
宅は冷暖房完備。保護者の勤
務地も完備。しかし、昔も今
も子供たちは「根性論」で我
慢を強いられています。どう
いう形で、市へと降りてく

るか現在不明ですが、「人の命」に係わることを後回しにしてよいわけがありません。何はともあれ、教室現状の防御策は講じてほしいと思います。特に、静岡県は子供たち一人当たりの教育予算のその低さは学校種別で見てもすべて毎年全国ワースト五以内レベルであることは「例年通り」です。学力・学習状況調査の全国結果の公表時の知事対応は「金は出さないが口は出す」と揶揄されたことを覚えている人が少なくないものと思います。

健全なる学校生活は健康管理を基盤とします。最優先課題として行政的検討をいたします。実りある「秋」の教育活動を推進したいと思えます。

**御殿場市
教育フォーラム
2018**

学校教育課 主席指導主事

小林 徹

七月二十六日、御殿場市民会館等において市教育フォー

ラム2018を開催しました。市内公立幼・小・中学校教職員約四百五十名と、私立幼稚園や保育園・こども園・託児所等職員約三十名が加わり、市内の保育・教育に関わる約五百名が一堂に会し、終日、研修に励みました。

今回で六回目を迎える今年度は、「共に学び、共に育つ、御殿場の保育・教育職員を指して」を大会テーマとして、午前の部の全体会では、若林洋平市長の御挨拶、教育長の基調講話、はごろも『夢』教育講演会を行いました。今年度より、午後は五つの会場に分かれて分科会を実施しました。

市長には、「御殿場市子供条例行動計画」に触れながら、「真の子育て支援日本一のうち」づくりに向け、我々教職員に対して、熱いメッセージをいただきました。また、多忙化が進む中、ねぎらいのお言葉もいただきました。教育長からは、新しい教育十年間の展望を見据えた基本方針をお話いただきました。以前より繰り返しお話をいただいている御殿場の子供を「真っ当な大人に育てる」について改め

て熱いメッセージをいただきました。アンケートには、

- ・市長、教育長がわたしたち教員に期待をかけていることが分かりました。
- ・市長、教育長のビジョンを聴くことができよかったです。

・御殿場市の教育の目指す方向について改めて学ぶことができました。中堅教員としての役割についても考えることができました。

等の感想が寄せられました。



参加者全員による「御殿場市歌」斉唱

はごろも『夢』特別講演会は、元NHK科学・環境番組専任ディレクター「ためしてガッテン」演出担当アスク北折 一氏を講師に招き、「ガッテン流！ネタの見つけ方・魅せ方」と題し、御講演いただきました。

北折氏の生き方（NHK退社に至ったお話）などを伺いながら、視聴者優先、お客様第一、という強い信念、プロ意識がダイレクトに伝わってくるお話でした。このことを、我々教師の立場に置き換えて考えれば、当然、子供優先、授業第一という考え方になりません。こいついったことが、自然と伝わり、理解できる講演会だったと思います。

・講師のプロ意識を感じた。自分もプロ意識を持ち、受け取ってくれる人がついてきてしまつような、知りたいたい感や聞きたい感を持つような伝え方をしたい。

・あつという間に時間がたち、中身の濃い講演だった。

・授業で子供たちを引き付ける力、学びを持続するためのヒントをいただきました。参考になった。

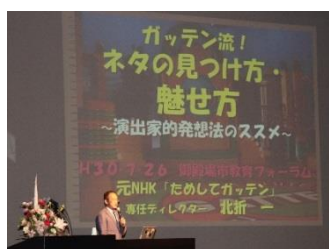
・見る人聴く人を引き付ける力は、教師にとっても大切です。子供のためにほめるアイデアを考えていきたい。

・北折先生にまんまとはめられてしまいました。初めからひきつけられてしまい、

最後までずっと集中を切らさずに聞くことができました。長時間であつたのに、それを自分が子供たちにしてあげられたら、どれだけ授業が充実したものになるだろうと思えました。今日学んだことを生かして、子供がつつい夢中になる授業作りをしたいと思います。

このような感想をいただき、本フォーラムを起ち上げた意義や経緯を継承しながら、今日の教育課題にも対応しうる、充実したフォーラムにしていきたいと改めて考えました。

今後、実行委員会、教育指導センターの先生方をはじめ、多くの皆様方に御協力いただき、「御殿場市教育フォーラム」を育てていただきたいと思えますので、よろしくお願いたします。



北折 一氏による『はごろも「夢」特別講演』

A分科会 特別支援教育部会

特別支援教育部会兼第一回御殿場市特別支援教育研修会では、静岡大学教育学部特別支援教育専攻の山元薫准教授を講師に迎え、「特別支援教育におけるカリキュラムマネジメント」について御講義いただき、カリキュラムマネジメントを具現化した「個別の指導計画の作成」の演習を行いました。

講義では、学習指導要領の改訂のポイントを踏まえ、次期指導要領が意味する単元づくりや観点別評価の在り方を学びました。新しい学習指導要領では、「個々の児童生徒の障害の状況に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ継続的に行う」ことが示されています。特別支援学級だけでなく、通常の学級においてもユニバーサルデザインを進めていかなければならないと感じました。また、一人一人の見取りが大切に



なり、個に応じた対応が一層求められるようになるので「個別の指導計画の作成と活用」が重要となります。演習では、特別支援学校の特徴である「自立活動」にスポット当てた個別の支援計画の立て方に、校種ごとチームで挑戦しました。「自立活動」とは、障害による学習上又は生活上の困難を改善克服するために必要な知識技能を授けることを目標とした特別支援学校で行われる（特別支援学級でも取り入れている）指導領域のことです。六区分に分かれており、具体的な項目は二十七にも及びます。これらは人間として基本的な行動を遂行するために必要な要素だそうです。

子供の困り感を自立活動の項目に当てはめて考えると、どのような力を身に付けさせたいのか視点が明確になり、目標や支援が具体的なものになりました。以下、参加者の感想を紹介します。

- ・ 障害を持つ子供がこれから増えていくことを再認識し、一人一人のニーズに応じた指導していきたい。
- ・ 今まで実態を分類しながら

目標を立てていなかったが、この方法で計画を立てると視点が明確になった。

適切な支援によってその子の成長があるので、指導計画がきちんと立てられるようになっていきたい。

研修を通して、身近にいる支援の必要な子供に対する接し方を見直すことができました。**【中西 直子】**

B分科会 生徒指導部会

生徒指導部会兼第二回不登校等研修会は、静岡教育事務所所地域支援課教育主査の土屋和広先生を講師に迎え、「魅力ある学校づくり ～不登校の未然防止と初期対応～」という演題で講義・演習を行いました。

本分科会は、本市が研究指定を受けている文部科学省国立教育政策研究所「魅力ある学校づくり調査研究事業」の浸透を図るために設定し、調査研究事業の趣旨及び内容を再確認した上で、不登校未然防止と初期対応の円滑かつ効果的な実施のための知見を共有しました。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校教育相

談員、市教育相談員、特別支援教育巡回指導員、家庭児童相談室相談員、青少年センター指導員等の様々な立場の関係者が本分科会に参加することにより、組織的な不登校初期対応の取組にもつなげていきました。

参加者からは、

- ・ 不登校の子供の数値を見て、どのような傾向にあるのかを分析することが大切だとわかりました。不登校になる前に防ぐ指導が大切なので、手のかからない子供たちが楽しめる学級・学校にしたいと思いました。
- ・ 他校の先生方と、新規不登校と継続不登校のグラフについて話し合うことで、自分になかった考え方を持つことができました。

この感想が寄せられました。これまで、不登校対応と言えば、不登校状態の児童生徒への自立支援が中心でした。しかし、



近年、新規不登校数が継続不登校数を上回る状態が続いており、自立支援だけでは不登校対応は十分ではないという考え方に変わってきています。不登校児童生徒の自立支援を進めながらも、新たな不登校児童生徒を生まないために、出席している全ての児童生徒に目を向ける未然防止と初期対応の視点が重要です。**【石田 善正】**

C分科会 授業改善部会

授業改善部会は、研修テーマを「これからの子供たちに求められる資質・能力」新学習指導要領の導入を教育活動全般に生かす」と設定し、高根愛郷会館で研修会を実施しました。講師として宇都宮大学教育学部准教授 山野有紀先生をお招きし、「これからの日本の外国語教育―全ての子供たちにとって学びある授業実践のために―」と題した講義・演習を行いました。

山野先生からは、「覚える英語から考え、使う英語へ」「主体的な学びを進める子供の姿」「すべての子供たちが学びを深めるユニバーサルデザイン」等、新学習指導要領改訂の趣

旨をふまえた学習指導の要点についてお話をいただきましたが、どの内容に対しても、体験活動を通した演習形式で講義が進められたため、研修員が「こんな授業を目指せばよいのか」という実感が残る研修となりました。

・外国語教育のとらえが、がらっと変わった一日でした。考えて使う英語を意識し、子供と一緒に楽しむ授業を實踐してまいります。

・山野先生はユニバーサルデザインを大切にされており、このような授業を實踐すれば、どんな子供も楽しく理解できると感じました。
 ・なるほどと思う学びばかりで、英語が好きになりました。
 ・アリタレーションやライム等は以前から知識は得ていたのですが、今日の講義で活用

の意図が明確になりました。

これらは研修に参加した方々の感想の一部です。どの研修員も、



日頃の自分の授業を振り返り、今後の授業改善に対する道筋が見えてきたのではないかと思います。

【丹津 謙志】

D分科会 園・学校安全委員会

園・学校保健安全部会は、『リーガルマインドと予見の重要性』すべてに優先する安全安心』をテーマに、学校事故の裁判にも関わった経験をもとに、静岡県学校危機管理の第一人者である、静岡県立清水東高等学校 鈴木 照彦 校長より御講演をいただきました。

近年、様々な場面での危機管理の重要性が叫ばれており、学校においては、安全面という点で様々な面で配慮すべき事案が増えています。鈴木先生からは、法律的な物事の見方、考え方、そして学校管理下の事故における予見の大切さについて、事例を交えてお話いただきました。特に、予見可能性と回避義務（予見することの大切さの認識）については、①壁が落ちそうな所にロープを張る。②下に行かないように児童生徒に注意する。③教育委員会に修繕を依頼する。の流れを御指導いた

だき、これだけを実践しただけでも事故が発生してしまつた場合の責任が小さくなることを学ばせていただきました。受講された先生方の感想を紹介いたします。

・同じ職場の教員間でも、安全に対する意識の温度差があるため、まずはその点から改善していくべきだと感じました。

・熱中症に関しては何かあつてはいけないので、予見し、先手先手で各学校が準備している様子がよく分かりました。

・分科会の人数や構成等が適切で、熱中症やヒヤリハットについての話はすみ意見交換ができました。

今回の研修をきっかけとして、先生方の危機管理に対する実践や感覚に大きな成果が發揮されることを期待しています。

【小林 徹】

E分科会 若手教員育成部会

若手教員育成部会は、「教師という仕事の魅力」及び「自らの教師としてのライフステージを振り返る、見据える」をテーマに研修会を行いました。元静岡大学大学院教育学

研究科特任教授山口久芳先生を講師にお迎えしました。

前半は、これから期待される教育の姿について、講話を伺いました。シンギュラリティの到来が想定される中で、人間はどのようにしてAIと共存していけばよいのか。そのような時代を生きる人間を育てるためには、今どのような教育を進めていったらよい

かについて多くの示唆をいただきました。特にAIの世の中であるからこそ、人間の非認知能力、さらにその非認知能力のベースとなる自尊感情の重要性を、日々の教育活動と関係づけながら語られました。「褒めるのではなく、認めること」「教師自身が自己肯定感や自尊感情をもつこと」など、参加者に訴える内容が多々ありました。

感想の一部です。

・非認知能力を育てる時に、認めて伸ばすことが大切ということが分かりました。自己肯定感や自尊感情を育てるために認めて伸ばすことを心がけていきたいと思

います。

後半は、参加者自らが「社会的承認欲求充足度曲線」を

描きながら、自分のこれまで歩んできた人生を振り返りつつ、今後の教職人生を考える活動を行いました。

教師という仕事の充実と自らの人生の充実を重ねながら、自分の将来に目を向ける時間になりました。教師としての道を歩んでいく上での、夢やエネルギーが参加者の中に生まれたように思います。

・先のことを考えると不安ばかり感じていましたが、初めて先のことをポジティブに考えることができました。それは山口先生のお話をうかがって、悩んでいるのは自分だけではないな、悩んでいるときこそ変わるチャンスだと思えたからだと思います。

こんな感想もありました。

本研修会が、若い教師が夢や希望を持って教職に向かう一助になつてくれることを期待しています。



【高橋 正彦】